

容ねの美と悪とありて人権乃名をて取れり
の儀と成て村氏戸と因かへ出と忌殺のたか
此上法家各戸と同く社奉と世俗十日恵比須
云六月十五日八月は二万社奉と

聖 西の海小風心せよあめや東にのちやあめと三師
あふ 二万社奉と何れあめふらふのちやあめと三師
あふ

○又いふ所氏をてあの内新田義貞降所

推古天皇九年三月聖徳太子始て妻実の御と教燈
子の神は藝と商賣法護の神と今にあひてを社奉
うて法商人あむあむのけ附りてとす

名所記追加

一廣田社 西乃まよりわひる村南をまき道ありて

より三丁山きり二十二社の内廣田八幡と神功皇后乃御事

又八幡の祀所謂

▲一殿一住吉 二殿一八幡 三殿一廣田

▲四殿一南玄 五殿一八祖

毎年七月七日社ありけ日神宮を出一族人は孫也又
八月十八日の社あり氏子星を奉

靈社とよめ歌

六条宮太政大臣

今日までかくと遠つてす廣田へ見ひる社神に候へん

一茂庫山 凡てむ社奉なり

夫未だのほぢや傳出ていさゝかおぼしき山とていふなり公
今「好のむす武庫のき孫はあまのいはれし御まより白狼（白狼は）を
○六甲山 武庫の續きより有馬郡（有馬郡）樫村といふてを
序六甲の山内より當山（當山）仲哀天皇（仲哀天皇）先皇（先皇）大仲姫（大仲姫）乃（乃）はまふか
つて忍熊王（忍熊王）てんとう山トありて後神功皇后（神功皇后）を悪て矢を
発し三韓（三韓）を侍り居是を知りひく武内（武内）の宿禰（宿禰）をつ
軍應をとりて麿坂王（麿坂王）及びみ人の族臣と謀りて山内（山内）に埋其
かゞ首（首）なりをみくさく山と稱ふ
○甲山 右山續き武庫六甲乃半腋（半腋）をてるれよりちか
がとのと四方（四方）円面よりて面向（面向）不肖の山也或は又乃基僧（基僧）こ
なるに居る昆陽乃大池を造りしめり其地をとりて筑紫

高き山とていふ山とていふ
一 鷲嶺寺 此の山内より山号六甲山と云大
長年弘法大師（弘法大師）同基（同基）なる上而觀音（觀音）乃像を安置是則
大師彫刻の灵佛也天正（天正）中（中）信長公（信長公）放火（放火）よりけり（けり）伽藍（伽藍）の及
室也旧祀悉く焼失して後今僅（僅）に基（基）なるを續（續）ひおさるを
後一村人（村人）にまかちる
一 感應寺 神尾村より山号ノ尾山と云始ハ神
呪より云用山（用山）也云尾山（尾山）なるなり觀音弘法大師乃作涌（涌）鳴
つて像乃内（内）に納む旧祀累々
一 南松原 此の山内より山号ノ尾山と云始ハ神
呪より云用山（用山）也云尾山（尾山）なるなり觀音弘法大師乃作涌（涌）鳴
つて像乃内（内）に納む旧祀累々

一 津戸村

右つぎふ一村あり

いかに久田備仲乃海子びりよふああ所代はきり一歌山系
仲乃子幸壽死の首を多田よりばふしとあきりい
他水よりあひまに埋より風越と名付ると松原山昌林
寺と心傳那乃田基の墓を死石なりあり三月十日に池
ぬのちりふと云ふ津門にす

一 鳴尾碕

海 浦沖より歌後

一 押照文

小島村あり

載とにころふ都の方乃山の端と足は馬尾の沖あり
かして海の子と名付と云へり
萬々 松とれ々歌あり難波乃海ありと云ふに記しあり

家指

一 小松崎

馬尾後小島村ハ街乃り小難波堀に二

松とけハ松

留妻小松ハ三ヶ所を云

新勅 難波と云ふ風さ世にれハ小松ハ勝又千鳥鳴るり勝明は勝

一 氏庫川

大河と

夫不 浦のふにありと云ふ歌武吉川流れと云ふに記しあるか 知家
葉 浦のふにありと云ふ歌武吉川流れと云ふに記しあるか 知家

一 琴浦明神

東新田村

さづの天皇茅十乃子

融大臣 徒恒河系庄大長と記し奈山城

の必奈河系流よあて塩竈浦を横よりと云ふに記し奈山城

吸いぬあやと云

松乃乃浪の調ふを海かむるのあきりあり

仲三

和名敷の傍り寶永七の寅年まゝ

一 福永寺ふくなが 貞享二年 一 花徳はなとく 寛保二年

一 ばさはさ 又また 寛保二年 一 摩耶山まゐやさん 千三年及

一 つきの水室みづむろ 初はつ 千三百六十年 一 保たも 千八百十年

一 楊正成やうせい 元もと 千三百七十年 一 神功宮しんぐう 千五百十年

一 月石碑建つきいし 二千七百二十年 一 以基もとい 千七百二十年

一 及び山岡やまおか 千七百二十年

兵庫名所記卷之上終

兵庫名所記卷之下目錄

一 福濃寺ふくのう 自然居士しぜんこし の井 福海寺ふくかい

一 二本松ふたぼんしょう 真福寺まふく 〇〇〇〇〇〇

一 和田の笠松わだのかさしょう 一遍上人へんじやう 塔た 〇〇〇〇〇〇

一 びんびん 清盛石塔せいせい

一 八棟寺はちどう 迹あと 渚沙すさ の入江

一 月見の湯所つきみ 萱乃御所うの 〇〇〇〇〇〇

一 魚乃御堂うの 藥仙寺やくせん 〇長谷觀音

一 千僧寺せんそう 跡あと 灯籠堂とうろう

一 和田の〇〇〇 和田明神

大和田の浦

本間遠矢

延喜山

句ひの梅

原五郎

長田大明神 ○月里

蓮乃池

蓋後池

妙法寺 ○車村矢拾地蔵

淀の橋

兵庫古城

内裏屋敷

真野の池 遠橋里海浦

通盛塚

新藻川

明泉寺

西代村 ○セツ井

禪昌寺 ○鷹取山

二葉松

忠度塚

盗人松

勝福寺 ○大手村聖天権現

因幡薬師 ○稲葉山

磯馴松

鏡ヶ池 多井畑

腰掛松

若木櫻 ○漢所

湊磨乃関屋

一の谷 ○いよろ織 ○鉄板が峯

○安徳天皇御遷幸場所 ○巖石落

飛松

月見の臺

光源氏古迹

行平松

細敷天神

湊磨寺 天室付

うめの山

○鐘ヶけ松 ○坂ちり

一 上野 ○二の谷 ○三の谷

一 敦盛塔

一 鏡川

一 須磨の跡

（このつた）
（無名）

一 山田の旧跡 ニヶ石

一 兵庫十景 北題

一 須磨の浦 十景北題

一 福原観音札所 名目

一 所々年積 上下後丁三記

一 兵庫より 松方通法

兵庫名所記卷之下

一 福厳寺

兵庫西の町

巨勢連山福厳大聖禪寺 二号山岡山佛が四師あり

後醍醐天皇 仁孝のまゝり御成婚の時三十三歳の年

物日高 る小一帝皇居のなり

高境門 小自然居士哲居りて井とわしむ水

一 福海寺 今久遠寺の跡

一 福海寺

同不南々

大光山福海興國禪寺 申岡山在庵常有大和尚

尊釈迦運を 作多の軍源のさる氏に祝賀安んずる

割 りて是文のひきけくしより上流の

は兵庫の浦小集のたふも初ねたうと別さ
御自筆は額を後又御線の幾満て田を乃額をの
山寺寺より佳音は二面より伽藍に喜音年
中大災つて敷宇坊舎恙やけやうびを後今北ふ
後ゆい云

観音堂立面前大悲るびう語傍あつて後とわの果

はる像るびふ多門天の梓次を以是弘法大師乃化身

一二本松 右寺より武田西の寺の云云 寺の云云

建武の足利在馬次志云云

一真福寺 兵庫西南の町のり

當寺は白拍子妓王妓女用基なる觀世音やろ則きまう

の寺は佛小像なり一は寺より南今石橋と云小川わ
送津川と云丹波のすねおはに思畏う流業の云
乃ゆえふさつて川とあり

一和田の笠松 石川の南をいづり古本はの二

後佐の松なり

秋は枝末までけまき葉をなしてけををわはるは云

秋風の吹く葉のけりもてさうて花が留はるは云

一一遍上人の御所 同所

西月山真光寺寂法は元祖一遍上人の石塔の云云

田の平廻玉の初は元二五年八月九日當比して遷化

一々御年 八世又元禄八年年九月十日に四十四代

一通上人を通河畢平とある寺にこの一遷化し
元祖上人の縁のるふに塔あり

當山後育仁明天皇は濟宗に惠尊法師入唐上宗
王少謁正帝大悲なる縁と賜小幡報の時ふかへ
船とてふ頃風云ふして船のふたふたの時船とす
惠尊是とふとらえ無有は縁とてはのふたふたに
安置とふふふふふのふを親音にふたふたの縁と
ふふふのふふふの時宗元祖上人と中興の同祖とす
當寺什物品とす

▲管家自畫の後 ▲人丸自畫後小定家の讃歌
▲業書の名号 元祖上人のふたふたの縁と

一 觀聖塚

真光寺のふたふたの縁と

但馬守平の管家自畫後 ▲人丸自畫後小定家の讃歌
ふたふたの縁と

一 清盛石塔

いふふたふたの縁と

へる清盛石塔六系とある元祖上人の国二月宮六十四
ふたふたの縁と

其塔

十三重



弘安三年

一八棟寺の迹

右月平おほき堂といは音撰云

天竺の退精して今も人のたのしみなりと傳へては主世永々二
年には寺と云ふ事一々新書なり

一徳佛の合 又次作 同下

葉おらしては入合の修治の事と決りてはなりと云
こゝろえき寺は徳佛の合なりと云ふ事なり

一置乃御不

同東南の方迹のなりと云ふ事

其の四なり 又樓の果て云いふ三間乃板屋と云

後白河の御代御ありては永く七月十日の流人又
孝上人おびてはなりと云ふ事なり

一泉の御堂

同大原山宮店眞福寺といは云





冠人（きりひと）聖瑞女（みよづみめ）は、天（あま）平（へい）舞（ま）中（なかつ）に、彼（かれ）却（かへ）り、果（は）る
と（と）し（し）り（り）川（がは）を（を）い（い）く（く）遺（い）迹（せき）を（を）い（い）ふ（ふ）今（いま）果（は）る

一葉仙寺

修（しゆ）聖（せい）塔（たつ）と（と）山（やま）南（なん）

聖（せい）西（さい）王（おう）山（さん）と（と）す（す）天（てん）平（へい）二（に）年（ねん）麻（ま）山（さん）と（と）北（きた）方（かた）

天（てん）平（へい）舞（ま）

聖（せい）氏（し）天（てん）台（だい）王（おう）行（ぎやう）基（き）僧（そう）正（しやう）に（に）初（はつ）言（ごん）わ（わ）し（し）元（げん）基（き）一（いつ）日（にち）一（いつ）夜（や）
安（やす）二（に）面（めん）の（の）年（ねん）末（まつ）果（は）る（はる）山（さん）と（と）南（なん）方（かた）人（ひと）將（しやう）宗（そう）と（と）改（か）宗（そう）せ（せ）り

觀（くわん）音（おん）の（の）音（おん）は（は）古（こ）佛（ぶつ）と（と）傳（でん）其（その）別（べつ）名（な）苦（く）寺（じ）同（どう）一（いつ）心（しん）に（に）
なり（なり）又（また）尚（なほ）古（こ）に（に）南（なん）愚（ぐ）自（じ）盡（じん）け（け）施（せ）願（がん）鬼（き）乃（の）捨（すて）せ（せ）る（る）宝（たから）物（もの）也（なり）

一（いつ）千（せん）僧（そう）寺（じ）の（の）跡（あと） 石（いし）寺（じ）の（の）南（なん）今（いま）無（む）常（じやう）の（の）二（に）跡（あと）なり

萬（ま）年（ねん）山（さん）と（と）行（ぎやう）基（き）佛（ぶつ）の（の）同（どう）基（き）一（いつ）千（せん）人（にん）の（の）傳（でん）と（と）は（は）り（り）供（く）養（やう）の（の）
事（こと）なり（なり）亦（また）田（でん）光（かう）大（だい）師（し）さ（さ）ね（ね）き（き）け（け）る（る）山（さん）と（と）南（なん）方（かた）の（の）跡（あと）を（を）流（なが）す

かひ、弥陀経一千巻念仏一面五尊と修し、家の奥
に常のいふ事降し正條名義集より

一 灯籠堂 千僧の南和国の奥の門

さうへんはわがれみえきりきりして持統天皇集
万葉集と行ひふは不今退格より下への流り

山梨集よりぬきにはいりの灯籠堂にはみえきり
建玄の流るる流りより上流の流るる流り

一 和国に碇 同海 同入 同後

兵庫南海中流已向いふよりかゝる所なり
素の流りよりいふ流り流るる流り

へる前
大政を

名は、以風、宿屋乃ねおちて、和国の入江、お流るる流り、愛知

一 大和国浦 和国の入江、お流るる流り

素の流りよりいふ流り流るる流り、和国の入江、お流るる流り、
万葉集よりいふ流り流るる流り、和国の入江、お流るる流り

一 和国明神 兵庫南海中流已向いふよりかゝる所なり

年中に流るる流り、和国の入江、お流るる流り、
わがせきよりいふ流り流るる流り、和国の入江、お流るる流り

ひよりを流り、和国の入江、お流るる流り

一 兵庫左岸

天正の甲辰、和国信越、あつて、その部有里、在城のこゝ、和国
の九郎、は城を守り、和国の入江、お流るる流り

一本間速矢

和田の勝を三丁のふね

建武年中はる氏はくしよりと條のこまお習孫四郎重武は
和田の流より舟軍乃御船へを矢を射くをその所におし

一 同裏屋敷

こまお所より石松丁中四角に

福原彰邦安徳帝御建幸の同裏屋敷より四丁の方集地乃
迹あり和田の惣を今水の子と云

一 延喜山

和田の系に

醍醐天皇の御幸ありて所王城乃地勢の
もとこまおに一の山せてくち集地のし今るまよ二丁三
丁のま山あり延喜の山の名と云

一 三井池

浦海里待橋 其厚今十丁余に東尻内村を

カウ美那の池のまをまよぬがて人の化をいふまよの

カウ「踏んてお果のまよきりまのほき橋と云」

カウ「こまおと子と社と取てまの池のまをまよきり」

未「若うなり美那の里人今ちむきてらわう苗や方代の取 隆佳

一 白梅

ひり尻内村より

まよたのこまお和田のこまお船をこまお風と云ふまよの
考をいふまよ愛一行名と云

一 通盛塚

其厚十丁中四角の苗池のまよ

ねにまよ一の谷合戦まよ山乃まよ越前三佐よりとり
三丁のまよと云村原を組討一まよ

一 源又はり

こまおはりお池のまよまよ柳あり

近江の國有人本村原入重章とらんとお祀

一 長也川

在傍のぬさだのふ川橋あり

みづらの重衡 手あねより藤原三三 漆川荊藻川ともうら

ほのき重の心とをよみ足ぬが林とたふれ一板屋とゆ

とあるくぬきさして藤原ふとあり

一 長田大明神

ふも川はさきなる多居あり式願道

風のきこる物並木入長田村の毎の八月十八日祭れり

▲祭神一座

串代主尊

攝社二座

神主大中に

神宝九元ノ貝アリ

神功皇后伐新羅明年二月皇后之船廻於海

中以不能進更還發古武庫水門而トス於是事

代主尊誨之云 初吾于御心長田國則以葉山

媛妹長媛今祭

。村上天皇應和三年七月十音於當社雨祈アリ

一 長田里

夫木國傳也ぬきはるきぬきあり長田の里に子苗取

兼仲

一 明泉寺

長田村奥天照山とて大日尊あり

一の谷合戦のとき越中節に盛俊降つたといふ通平知章ノ

はりあり

一 蓮の池

かたも川つづき

い池は基はみ天香中まほせの農業早魁の積

なるらんがため蓮の一粒と池中へまがへ八切蓮水と耕

とすの池と号す

一西代村

日るび西代村ありけふはあけけ
ちあてりふいはより原のうへはひるのまといふもあせう
井ふみ

一鹽俣城

けふは西山より田の巻あり

東家はたお多しうのあけよりやー原は方狹俣あ平六
則徳と徳合のつる俣のうへは俣とす

一禪昌寺

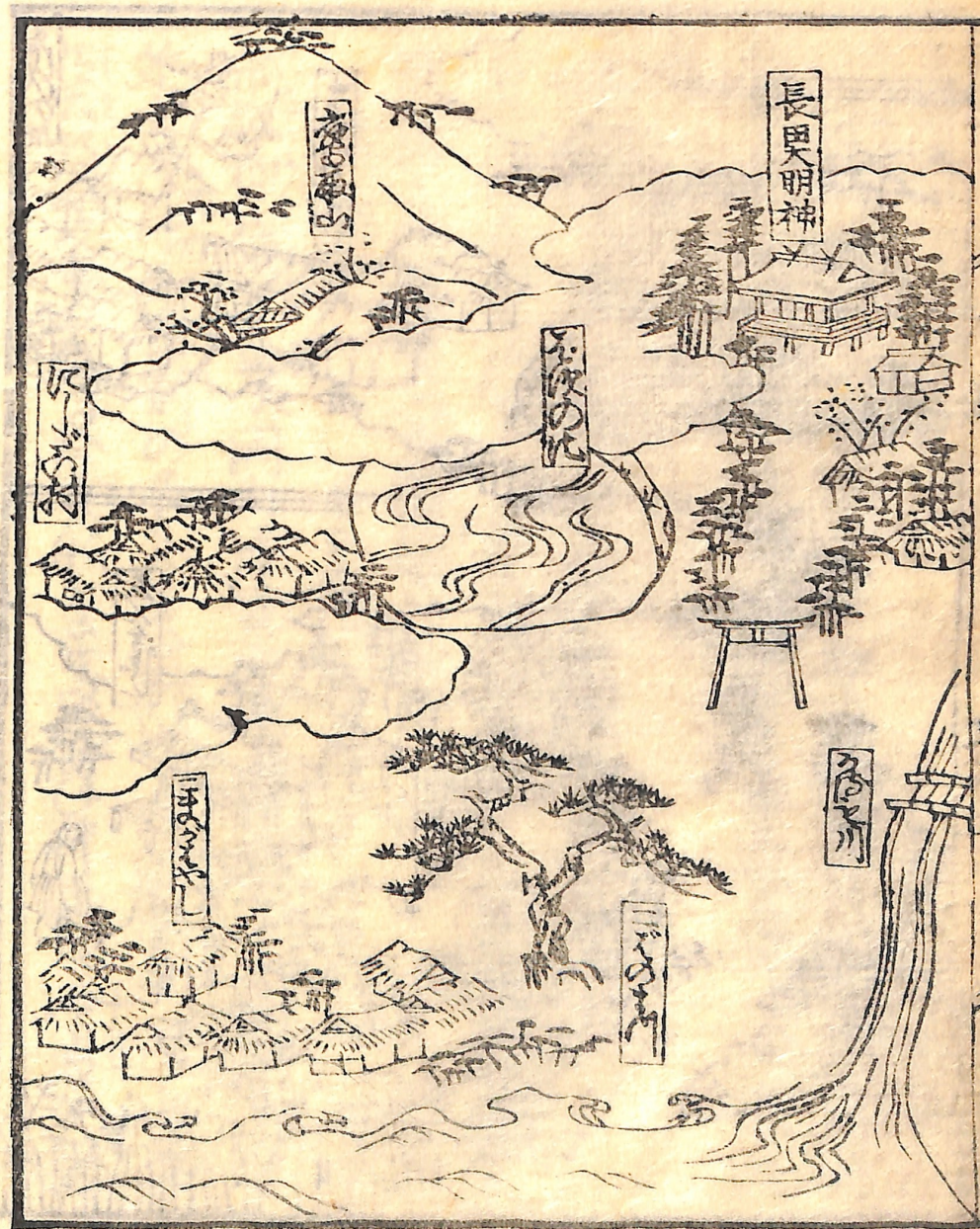
とすの池と山内

帝釈神松山と号し用山月菴宗光大和尚

後光厳院

延文より仲御系剣のまじりし俣はあはれ教郎刻高山八豊
は云政安よりあはれむるまじりし俣はあはれ上田令吉と賜





智跡と傳與一なる處ありていふ上の山を祇陀山と云ふ又舊に
 山と号す昔神功皇后三入隔船ありて是より石をたれりて
 いふ山の上と云ふなり忽ち山と云ふより祇陀山と云ふ山麓に
 尚登山と云ふ山ありて山を祇陀の勢原と云ふなり
 備守殿とのとて祇陀と云ふ山麓の山麓に其後和向六十
 四家より康永元年己三月廿三日遷化しより正續大祖禪院と
 贈号あり

一妙法寺

蓮の花をすてゆき

其言めさ山と云ふ山麓の山麓に其後和向六十
 十丁身を成山と云ふ山麓の山麓に其後和向六十
 一二葉松 一名やまね 又深田と云ふ

うきまぬ俗四流とわたりて一本の松を極く君と号す
乃こせり

一勝福寺

西代村々又下りくたの上と云ふ所あり
聖天位院の社と云ふかく大寺村ノ上よりあり桂尾
山と云ふ一条の山御勅乳おきする所と云ふ人春日の作興
さん理承上人と云ふ也又宝ありけり小も牧溪思
恭吳居士三三妙法師ホの常おのく佛慈弘法大師
所持の楊杖又普座つきどは供事の時十なるま
佛堂あり昔ハ坊舎をたまりけり今僅に

宝光院

象は坊

遍照院

探本坊

東林坊

一月見の松

奥座より二里半東次ノ村ノ上山の寺院ニ
松十中余あり仍事伴納云月見の松と

一圓懷素師

編纂山

寄東次ノ寺

一ひう原氏ノ古述

りすぬらり

仁明天皇の皇子光原氏の君次ノ明石の景色よまゝひ
爰不暫く喜秋を這りぬふたふたせのまじりや

一破馴松

東次ノ西ノ山々村院也すべの松を云

行平翁はい倫もたてぬひと勢して破俗一ノ名跡
を慕ひて松の意を名跡の方へをひくと云

後次ノ松の意はまじりぬ下松は浪のうゝぬ見れ

一行平記の松

うたふる屋へ東次ノ下

一 眞磨寺

兵庫より一里余余西のいごう上子
上野山福祥寺と号し本尊を觀音之岡山開燒上人
神領廣もとりむつ天長の比和名の洲の海底に母を
光明が燈として碧天と照す法入ふと以て恐る処は眞人
の因縁をあらし眞と名一つは檀木觀音の天像を
ゆかり小宇に安置に其天意あらるりしけり銘延
達と光孝天皇仁和二乙子開燒上人の執して次
の御上尊と山より移しけりちる御ありて天下安
令の御勅願所とす其後金壽年中に源三夜頼政諸
寺社とも悉再興と云ふ領御衆あり
又其後指大領云豐臣本頼は再興

○本寺の厨子ハ頼政寄附の遺りあり

○樓門ハ金剛力士等又毘沙門父子相ともに彫刻なり

須寺天室ハ亦有之なりとて畧す

▲嘉業の巻 弘法大師作

▲高麗笛 祐基傳作

秋の風はさふ吹きて笹竹のうけむしと思ひこゝろを

▲敦盛赤旗名号 佐佐木公家

同 寺持たすより寺で絶へ糸施の蓮よと色にけり

▲母衣納名号

甚正傳作

同 江の水と雲と霞でりきかくも心行々足あも佛力

▲敦盛幼少の時より和歌二首 一月甲冑あり

庭松 中々同寺でもなるはんおのきはうゑたのーらぬに



中
今
之
根
之
根

一 若木様 （はな） 次広るのあはれ

一 若木様 此座の
 むろ 源氏の志す處は病あり能敷屋小松 木よりと休
 氏の志^{おもひ}はいつうなり 若木様さうなのにはとめ
 ぞのきりえうらうと

[illegible]

一 嶺の山 同上乃山あり

月明今夜の光を眺む深き乃廣よりる浦見
その人のおひまじとて来ぬ廣の海のおもたはけが

○ 慶寺の風系



白石塔あり堂の奥再建して是に立寄るべく之を修めり
 高さ一丈一尺臺石四尺四方あり
 ○又此塔の上には山泉ありと井乃流り

敦盛石塔

一休

昔斯地有戰場名流血染残嫩木櫻
 須磨浦風散花々恰如熊谷打敦盛

一鉢伏草

三谷の上といふ

昔神功白鳥天皇御時退治敵ありと云ふ處に此草あり
 士卒と集めぬ中をわきまて此に伏名軍功と傳れ
 又依て此伏乃草と云 曾し盛と伏ふにふし

一頃まの浦

此所が一里中東西南北今村と

俊成

白紙發多と云ふ字、源氏物語にも見ゆ。第一一人也。

法華

○ 狸次まの物

五

この次は、その江主のうに蓄け、次は、

興慶分二里

細川あり係氏平家の戦場

手八棧^{てはち}の塩^{しほ}を限^{かぎ}つ

平家城⑤と原境川合境村是拾丁斗西熊谷川東雲

○境川分爲播州、三尾、淡路、必、海上三里、福

永永三甲辰二月七日一の若合歳卒永永死の人の

三月改元爲元曆元年

五

平古

1

一

ク
ウ

伯文將小一為本此凡盛後一照此本融於方

は爲^いを家^け徳^{とく}の王^{わう}として凡^{およ}三千余^よ人と軍^{ぐん}を率^{しよ}ひて

訓くはねの穂りと雲水七庚寅年より

一福藏の皇子 三萬七千九百一 一某仙る 九百七十四

一福海の子 三萬七千九百一 一福昌の皇子 三萬七千九百一

一一遍上人 四萬二千五百一 一廣一 六萬二千五百一

一同軍還上人 十六年成 一太中 七萬二千五百一

一信公亮 六萬二千五百一 一の香城 八萬二千五百一

一同 五萬二千五百一 一乃平 八萬二千五百一

一萬丞相 八萬二千五百一

矢田部郡丹生山田の庄田跡ニケ耶 兵庫より三里山中

一梅雨井 系野村栗花落氏の宅より

水の涌出は間々天余直三尺深さ二尺ばかりは水はききぬれ

に梅雨に入ると必らず水はききぬれ水はききぬれに梅雨は日教と

室む五月栗乃花の落すは梅雨の時節なりあるは三宮に

依り地をれ地とは始祖山田左衛門尉真勝八四十七代徳宗

天皇の御宇朝廷よはれしに横教右大臣豊成の御宇急

女白沙弥と恋倦くかくと云ふは白なる一白の和歌をかく

は 中おいの妹 雲たにや花をなれぬををれ思ふ雨男よ

とよとてかきぬる人となりて難面なりをきかきをわたり

是より返事ナラば得ずやと申されはまじき事なりて

こゝの所の稲むの毛濡れに濡れはまじき事なりて自然の水

と申ておろきまじき事成のまじき事なりての所なりぬとを感

終は帝小はして白蛇ひめをまつた事は送る帝より森川

は天國乃御叔と申しぬる事なりて其後白蛇一男を産て

三と男の内男はるぬぬ仲友にぬる遺骸と申しぬる事なり

にぬる細て叢祠と申しぬる事なりて天國にぬる事なり

お今小申して梅をぬる事なり

一鷲尾旧迹

下村

家記 桓氏天皇の皇子葛系親王十四代安濃は三良貞海が

孫弁名に良清綱と始て鶴尾の姓とぬる事なりて男名

久と申しぬる事なりて号しぬる事なりて居位を係の事なりての谷
戦場よりぬる事なりて難を越ぬる事なりて武久案内者より應諾
して生年十七にたる一子をぬる事なりて是を鶴尾太良経春と云
大和乃譚をぬる事なりては孫系所伝ひてぬる事なりての事なり
武久は長良と申しぬる事なり

一太刀 一振長二尺七寸
大系よりぬる

一もの刀 一陣はく一振

一もの 一流ひのぬ

一武系所伝ひぬる太刀 長四尺寸

一鹿井六良太刀

一櫛 一膳なりと申す武系よりぬる

右代々傳ひぬる太刀八圓白秀吉よりぬる

兵庫十景の題 扶桑名勝詩集

龍梅早春

漆川清流

經島煉月

兵庫歸帆

福原旧都

布引飛瀑

廣田神社

和田笠松

兵庫暮雪

生田晴嵐

須磨浦十景乃題目

若木櫻花

上野復州

閑屋間月

兵庫飯帆

後山歸樵

兵庫晴雪

塩屋暮煙

須廣寺鐘

一谷古戟

磯馴松風

福原三十三番觀音札所

一番 兵庫 萊仙寺

二 東風池村 法立寺

三 駒が林 海泉寺

四 駒が林 慈眼菴

五 駒が林 松源菴

六 日 松月菴

七 野田村 正福寺

八 東ノ村 淨德寺

九 又ノ寺 福祥寺

十 大手 勝福寺

十一 板宿村 禪昌寺

十二 池田村 妙承寺

十三 長田村 福壽菴

十四 夢ノ村 長福寺

十五 島原 願成寺

十六 石井村 靈善寺

十七 平ノ村 東福寺

十八 荒田村 宝池院

十九 坂本村 龍泉寺

二十 花熊村 福德寺

廿一 兵庫 極示寺

廿二 兵庫 神宮寺

廿三 兵庫 西光寺

廿四 日 惠林寺

廿五 兵庫 法界寺

廿六 日 来迎寺

廿七 日 金光寺

廿八 日 福嚴寺

廿九 日 福海寺

三十 日 永福寺

世一兵庫能福寺

世二
真福寺

世番 真光寺

兵庫今法方（江ノ法）

いやくこちをみかたの方角の
所家をばききふりし

[illegible]

文福原の都跡兵庫の前後の石高千石古
 迹ありて右の世知る所多し一函ハといへるも
 未案外といふは書もあらず僕連年成心十并と
 志の多し近世國花萬葉集撰外群談の書
 等行進く都跡の詳は有る雖もあはく
 大部のしるしに感次第又順に脱漏
 訛謬ありて是ありて止事を得ずと左ホイ
 を遂めしは倭小綴江都旅寓の本に於て
 梓又鑲道知邊と傳ふ

寶永七庚寅八月良旦

揚州兵庫津

菊屋新右衛門

八百屋太夫共術

兵庫県立図書館
☎ 078-918-3366



100137686

兵庫県立図書館
☎ 078-918-3366



A100137686A